

第2回羽幌町離島振興計画策定住民委員会 会議録

- 1 開催日時 平成24年10月25日(木) 18:00~20:15
- 2 開催場所 天売総合研修センター 和室
- 3 出席委員及び欠席委員の氏名
 - (1) 出席委員: 宮崎 尚武、万谷 美喜子、野上 正弘、佐賀 大一、大井 幸子、高松 亮輔、
 - (2) 欠席委員: 松森 二美子、蝦名 修、寺坂 國廣
- 4 説明のため出席した事務局職員の氏名
総務課長補佐 酒井 峰高、政策推進係長 熊谷 裕治、政策推進係主事 廣谷 将大
- 5 会議の公開、非公開又は一部公開の別 公開とする
- 6 議題及び議事の要旨
 - (1) 議 題 羽幌町離島振興計画(素案)について
 - (2) 議事要旨
 - 野上委員長よりあいさつ
 - 事務局より素案(総論、基本構想)について説明。
 - 意見等(以下のとおり)

委員: 基本理念について、「ゆとりと安心のある幸せを実感できる島」は最も大事な理念だと思うが、今住んでいる人はそこそこゆとりと安心を感じていると思う。皆小さい時から地元で育っている人、結婚して来られるケースがあるが、それなりに現状に満足しているから住んでいる。そこを敢えて基本理念として押して行くというか、それに向けて基本目標を立てて取り組むということは出来ているのではないか。むしろ、ゆとりと安心を持ち過ぎたからこんな状態になっている訳で、そこについての危機意識を島民に啓蒙出来るかが今後10年間の課題だと思う。例えば、焼尻で言えば、天売の様に医師が居なくなった時にどう対応して行くのか。町議一人に探させるのか、例えば、アンケートの羽幌町民からの声で、「健康をもっと売りにして島民がこれだけ健康に気を付けているのだから先生来てでないと、何でもあてがってというのは間違いではないか」という厳しい意見があったがそのとおりだと思う。もし、医師が居なくなった時にどう取り組んで行くか、居なくならないようにどう取り組むか、今医療だけを話したがそれを基本理念に持ってくるべきものという気がする。

委員: 委員が言うとおおり、ゆとりが有り過ぎるのかなという感じはするが、今の

住民が10年後どうなっているかをどこまで考えているか。例えば、10年後、人口がある程度減ったら行政サービスも低下してくるのではないかなと考えれば、他人事でないとなるはずだが、住民の意識がそこまで達していないのかなと感じる。

事務局：「ゆとりと安心のある～」というフレーズにした理由は、産業の活性化の事を言って「ゆとり」としており、今後、漁業者が少なくなって水揚げも減って行く中で、どれだけ島の人が今の生活を維持して行けるのかということで、10年後というよりも島がこう在るべきじゃないかという気持ちも込めてこういったフレーズになっていて、島の方々が自分の仕事に生きがいを持って、しっかり所得も稼いで生活していけるということ。「安心のある」というのは、医療の事を言っていて、この間、天売で医師が半年程居なかった期間があり、住民が地域で健康に暮らして行くためには医療や福祉が一番大きな問題だと思う。これから島づくりを考えた時に、10年後を目標とした具体的な理念にして行くのか、将来の夢と言うか理想を掲げた理念にするのかは考え方次第だと思う。

事務局：フレーズに拘らなくても、こういう島にしたいというものがあれば出して欲しい。

委員：昔は、観光客も沢山居て、鳥も居て、水産物もそれなりに採れて、対岸の方から見れば夢の浮島というフレーズがあったが、今は夢の浮島なんて状況では無いが、やはり昔の様な島にしたいと思う。

委員：あんまり大きな理念ではなくて、本当に今緊迫している老人医療のことも、お年寄りの話を聞いていると大変だと言っている。身近なことから具体的に決めて行った方が良いと思う。ただ、夢を描くようなことを言ってもそれは無理ではないかと思う。

委員：具体的に持って行った方が良い。住民からアンケートを取り、ある程度課題が見えて来ていると思う。理想も大事だと思うが、具体的にこういうことをしたら良いとか、お願いごとが多くなると思う。例えば、交通の問題にしても、一部の住民から天売は焼尻より多少距離があるが同じ羽幌なのだから焼尻と同じ運賃体系に出来ないのかという意見もある。そういう一つ一つの課題に対し、より具体的な考え方を示してあげた方が、ゆとりと言ってもピンからキリで、ギリギリでやっている人もいるし、色々な面で一年間働きたいけどそういう場所も無いという問題もあるし、漁師にしても夏だけやって冬は休んでいたりする。具体的な目標に出来ないのかなと読んでいて思う。そうすれば、皆さんの意見もより具体的に出てくると思うが難しいのか。

事務局：今言った話は、後々、島の方々の生活が潤って行けばこういう風になって行くだろうという、もう少し具体的な話になってくると思う。漁業については、後継者の話だとか分野毎に色々な話が出てくると思うが、目標を

達成するためにそういう問題があるので、問題をクリアするためにこういう風に展開して行こうというもう少し後の話にしたいと思っている。委員が言った話もそうだし、運賃の問題であれば、人の輸送もそうだが、物資の輸送のことも全部絡んでくる問題なので、具体的なことはもう少し後で話をします。

委員：これが無いと話が進まないという所で基本構想だと思うが、今は触れずに後の方で皆さんの得意分野というか各分野で話をしてなんとかなるのか。それとも、今基本目標を決めておかないと駄目なのか。

事務局：それを先に設定した方が良いのかなということ。ここは、色々な幅広い意味のトータルでの島の全体像なので。

委員：その幅広い意味と言うのが、前回も思ったが、ここが計画の一番の肝の気がする。この問題を島に住んだことの無い人達が、とりあえずと言って立てたもので、ぼやっと濁したまま進めてしまう方が危険なのかなという気がすごくしていた。

事務局：出来れば今日の会議である程度話を出して頂ければと思っている。今言った、もう少しピンポイントに絞ってということであれば全然構わない話。

委員：ピンポイントに絞った分野別の話もあるが、進め方もぼんやりで、自分は正直なところこれでは10年後何も変わっていないと断言出来る。というのは、事業として何一つ自分達に提案させてもらえていない。早い話が、いくら予算があるので何と何なら出来ます。島民の皆さん何がやりたいですか？何が必要だと思いますか？10年後に対してどうしたいですか？というのが、本当の策定なのではないのかという気がしている。このままぼんやりと進めて行くとさっきから皆さんが言っている具体的が全部最後にアバウトなまま一冊の計画が出来て、それこそ誰も目を通さないものになるのではないかという危機感がすごくある。

委員：前回の会議でも、「検討します」とか抽象的な表現だと言う意見が出ていたが、これに対しても「内容を検証し、分かり易い文章にする。」という回答だと、またぼんやりしている。

委員：たぶん、ここにいる方々は皆その危機感を持っているからここに来ているのであって、極端な話をしたら自然環境を維持するためにはこれぐらいの予算がありますと、ハード事業、ソフト事業で島民の皆さんどういった事業がありますか？の方がずっと活発な議論になるのではないかという気がする。とりあえず、この基本構想を落ち着かせないと話が進まないのであれば、これはこれとして良いのかなという気がしますけど。

委員：結局、行政が作成するとこういう形になってしまうが、我々が求めているものはより具体的なもの。大きくなっても同じ、国と国民との考え方でも格差がある。

事務局：色々な分野を計画に入れたいということがあるので、こういう表現にするのは10年先のこともあるので、こういう事業と断言すると、違う事業は出来ないの？やらないの？と、捉える人も中にはいるので、今の所はこういう表現にしている。事業についても、前回の委員会で説明したが、実際に今やっている事業しか掲載していないが、思いとして事業名は変わらないが中身を変えて行こうという思いを持っている。そういう表現が分かり易いように思っている。今は、事業説明にしかなくていいので、次回の委員会までにこういう方向性を持って取り組んでいきますというものを示して行きたい。

委員：10年先を見据えて構想と言っても、少子・高齢化になるとそれが何もすぐわなくなってしまうのではないか。今、一生懸命話をしてもそれが何の役にも立たないのではないかという気がする。本当に今必要なことをやって欲しい。

委員：委員になって会議に出てもどうなのだと、我々の意見がどれぐらい反映されているのかということもある。

事務局：その意見を委員としてまとめて頂ければ。

委員：例えば、お年寄りが集まるにしても移動の手段が無いということがあるが、どこに言ったらそういう対策をしてくれるのか？その方が先に話を進めて行きたいような気がする。そこに到達するまでに何回段階を踏んで行けば良いのかという気がする。理念として、こういうものが必要なのでしょうか。

委員：次回、語尾の表現が若干変わって出てきたところで、最後の羽幌の時にどうなのかということ、たぶん何も変わっていないのではないかと、皆思っている。

委員：そういう気がする。

委員：たぶん、天売・焼尻の人にこれを渡して、理解出来る人は数える位だと思う。もう少し、誰が見てもどういう風になるか分かるものであれば良い。

事務局：小さい字で沢山書いてあったりするので、もう少し分かり易い表現にしたい。

委員：表現だけの問題ではない。

事務局：こういうことをやって行くというものが見えれば、より良いという話ですよね。今日、会議を終わった後に渡そうと思っていたが、「現況と課題」があって色々な取組をしているということに対し、事業要望ではないが、こういう事業をやればより良くなるのではないかという提案を書く紙を渡そうと思っていた。それを次回の委員会までに出して頂きたいという考えを持っていた。事業をやることもあるが、事業をやることによって島がこうなれば良いなというのが先にあった方が良いと考えている。

委員：これは最後に町長に報告するという話があったが、まさしく町のHPにある町長の三本柱の島版というだけで、10何年やってきて今どうなの？と、島民皆が思っていること。一島民には分からない予算付けのことも色々あると思うが、はっきり言うと前10年間で何も変わっていないこの現状に対し、島民はフラストレーションを抱えて今会議に出て来ている所で、また同じようなぼんやりとした計画を10年後までと言われても、このスタンスの違いをこの場で何とかしないと、8Pより先に進んで行かないと思う。進め方は色々あると思うが、取りあえず基本理念はこのまま置いておいて、分野毎に皆さん意見を出していく方法で良いと思うが。

委員：一生懸命まとめてもらったが、我々では調べがつかない所まで事細かく書いてくれて参考にはなる。ただ、振興計画なのだから、もう少し具体的なものにならないものか、皆島を良くして行きたいと思っている。

委員：何か、上部に報告するために作成しているような気がする。

事務局：作り方は全然これに拘っているものではないし、そのために委員会を開いているので、このスタイルがどう変わっても良い話。今言った、上部に報告ということが無い話で、羽幌町独自で作る話なのでこういう形が良いというのがあればそれで構わない。

委員：極論を言えば、市街2回、天売、焼尻各1回の回数に当てはまらなくても、委嘱状の期間内であれば回数は増えても良いのか？皆さんの都合も勿論あるが。

事務局：今日の話もそうですし、次回の話の如何によっては回数を増やしてというのは当然出てくる。ただ、出来れば年度内に策定というがあるので、12月になっても年度内に策定出来れば問題は無い。

委員：それであれば、基本理念からもう一回やるのが良いのではないかと？時間に余裕があればだが、時間が無ければ皆さんそれぞれの分野で言いたいことを沢山言って、こういう事業を興してくれという提案を出して、検討してくれと。

委員：要は、基本理念をもう少し具体的にすること。

委員：総合振興計画の策定にも出たが、離島の関係も大体似たり寄ったりの感じがするし、重複している所もある。これを基にして島だけの計画というのも分かるが、この時作った役員会でも10年は分かるが、3年なり、5年なり、8年なりの委員が言ったとおりの目玉を一つでも二つでも良いから、島民の皆さんの意見を聞いて実行できるだけの予算付けをしないと、10年も経てば時代が変わる。昔は10年一昔と言ったが、今は2年で一昔。

委員：10年も経てば人も居なくなってしまうし、変わってしまう。

委員：特に2,3年で随分変わっているので、10年先になったら人が居なくなる。

委員：そういう所をもう少し考えてやれば、目が出来、口が出来、鼻が出来ということで10年位経てば一人前の顔になるという位の事をしなければ、言

葉は悪いが、どの10年計画も大体似たような事になっている。

委員：住んでいる人は変わらないけれども、10年経てば役場の支所長にしても島民してみれば5人も変わる。

委員：町のように人が沢山集まる所なら良いが、ますます減少する一方。

委員：ここで立てた計画がうまく引継いで行くものなのか、部署が変われば全く関係ないという形になりそうな気がする。

事務局：それで、紙というか計画を残して、誰が見てもどのような話をして設定したのか分かるものを残したい。10年とは言ったが、当然、時代背景によっては変わって行くケースがあると思うので、時代背景が全く変わって全然その時代にそぐわないものについては、当然、羽幌もそうだが見直して計画の修正が出てくる話。たたき台というか、何も無い中で話してしまうと困るのでたたき台として作っている。これに全然拘らないで結構です。ぼんやりしたものでは無くて、もう少しこれに絞ってというもので良い。

委員：自分ばかり話してあれだが、逆に基本構想と基本目標も次回までの宿題では無いが、一旦各自でそれも考えてくるということで、今は細かい話せる所を話して行くというのはどうか？

委員：今あるのはたたき台であって、これに実態と違うことも当然あると思うし、追加する事項があれば意見を出して欲しいけれども、さあどうですかというとなかなか出ない。

委員：一回一回の会議で全部やるのではなく、例えば、今回は福祉・医療の分野で集中するとか、次回は漁業・産業のことについてやるとか、全体でやろうとすると結局時間もあること。島の産業とか代表的な人が3人ずつ出て来ている。専門であれば色々な問題点などの意見が出てくるので、それを皆で詰めて行くとか。

事務局：海士町では、計画を作る際に住民委員会で会議を重ねて素案を作り、行政がその素案を基に計画を作り上げるというスタイルでやっている所もある。今回、羽幌町の場合は元々ある町の総合振興計画を基に、同様の構成で離島振興計画の素案を作っている。本当は、住民の皆さんで話し合う時間がもっとあれば、委員が言った様に一つ一つについて話し合っ決めて行くことも出来ると思うが、年度内の限られた時間の中で策定して行かなければならないという制約のこともご理解頂きたい。

委員：どうしても年度内でなければならぬのか？例えば、海士町のように天売や焼尻の中で何回も何回も住民委員会を重ねて話し合っいった方が良い計画が出来るのではないか。例えば、私は天売の観光協会の支部長としてやっているが、羽幌町の観光のことや焼尻の観光のことは分からない。自分の島の事は話せるが他のことは話せない状態。年度内に拘らず島の人が集まって話し合えないのかなと思う。役員の選び方ももう少し多く出来

ないのか。島だけでやるのであれば、島から出かけることもないので各島で出来る。

事務局：それで、今年の春先に各島で住民委員会を開いて頂いて、課題や要望関係が色々な方面からあったので、それらを集約して素案を作らせてもらった。

委員：島民アンケートもあった。

委員：他地区はどうか分からないが、焼尻の場合は最初に集まった時に僕がソフト事業にだけ口を出してやる位ならやらない方が良く、ハード事業でも予算付けがどれだけ出来るからということ島民を集めないという意味が無いという所からスタートして始まっている。それで、また今同じことを今ここでやっているのであれば、年度内の策定をご理解くださいというのは分かるが、それであればもう一回戻して、逆に言えば、そのためのスケジュールを組む日にしたらいいのではないかという位、有意義な話が出ないのではないか。

事務局：今、意見の中でハード事業の予算云々という話だったが、予算は結局こういう島にしたいから産業をもう少し重点的にやって行きましょうという風になって、例えば、3、4年後、10年後もずっと産業で行くということであれば、当然、産業に重点を置いた目標に設定しても良いと思う。また、産業もそうだが、やはり高齢者や福祉の問題で人が住んでいる以上はもう少し重点的にやらないといけないというのがあると思うので、その目標を達成するためにもう少し素案を変えて欲しいという話が出てくると思う。この事業は、こういう島にするからやるというものがここに出てくるようにしたい。

事務局：海士町の場合は、「子どもを増やしたい」1年間で100人生まれば、数クラスが出来るので高校も維持出来るしという話から、子どもが生まれたら10万円あげようかということで動いて行ったようで、基本理念で「子ども100人」としていて、そういうもので良いと思う。

委員：そういう資料は無いのか？同じ島でも受け入れられる部分、受け入れられない部分があると思うが、丸きり初めてのことでポンと出されても。こういう島がありますよとか。そういうものをもっと出して頂ければ、島の人よりも話し易くなるのかなと思う。

委員：今の話はすごい魅力的な話で、子ども100人。移住したいなと思う位、すごい魅力がある。「ゆとりと安心」というのに当てはまる。そこであれば子育ても不便な土地かもしれないけど、これから取り組んで行くというエネルギーがあって、子ども100人良いなとすぐ思う位。

委員：子どもが居れば、じいちゃん、ばあちゃんを呼んだりも出来る。

委員：でも、ここだと産婦人科が無いですし、若い人も居無くなれば無理ですよ。そこそこにあったものでなければ。

事務局：実際に、天売・焼尻の現状を見据えながら、観光業を増やすだとか、漁業者をあと 20 人増やすだとかでも良いと思う。

事務局：そうなったら、委員が言っていた新規でなくても、跡継ぎの人のために予算を付けるかと言う話になる。

事務局：というのが、事業として後ろについている。その目標を今話し合ってもらいたい。

事務局：新規 50 万なら意味が無いというような話に繋がって行く。

委員：ただ、何をやるにもある程度金がなければ、40 代夫婦が島で暮らすのであれば年間所得がいくらで雇用とか、何十万助成というのも一つの方法だろうし、そうなれば問題は金のこと。町民の皆さんの税金で支えて行くのだから、やはり還元する所は還元して、ただ、助成ばかりを当てにしても困るから、島にいる人が何を出来るか、また恩返しに何が出来るかということもお互いに考えてやらなければうまく行かないと思う。さっきの事例だが、色々なアイデアがあると思うが、我々分からない者が見れば資料を貰うのは良いが、あれも良いこれも良いで整理が逆につかなくなると思う。やはり、島民独自の考えでもってやる方が良いと思う。

事務局：事務局としても島民独自の考えの方が良いのかなと思う。また、それぞれ環境も違うので。

委員：やはり島に住んでいる人が、これから 10 年と言わず、3 年後に何とかこういうことをお願い出来ないかとか、こういうことを計画したということをやって行って、それが良ければ 10 年計画の中に入れてれば良い。それが、駄目であれば次のものと言う方が良い気がする。

事務局：島民の人口をある程度のレベルに維持する。委員が言っていた、だんだん島から出て行く人がいるので、その分交流人口を入れて行かなければならないのではないかという事業を出してもらうのか、そういう話に持って行った方が良いと思う。

委員：今回敬老会をやったけれども、この人籍持って行ったよとか、この人お盆に墓参りしたら行きますからという話を聞くとガクっとなる。また、今回仕事の関係でデイの方も携わっているが、今焼尻島は天売島と違って人数が少ないが、その人数の少ない中でも、2 回しかやってないけど、まだ増やしてくれという人がたった一人だけいる。子ども達は来いというが、このデイがあるから皆の顔を週に 2 回見られるからここにいて、いずれは 92 歳だから行かなければならないと言っている。この 2、3 ヶ月高血圧の薬を飲み始めたが、至って健康で昆布拾ったり、赤っぱ取ったり、干したりを手伝っているからなんせここに居たいと、だけど今年の冬は薪があるから焚くし、足りなければ灯油を焚くので今年は居るけど来年は居れないと、島の人にも歳だから迷惑をかけたくないと、居たいけど居れないと

言っている。それで、自分自身札幌から島に来て 40 年位経つが、都会から島はすごくギャップがあった、でも 40 年も経ったら健康な限り、こんな良い所は無いなと、夫がめん羊の方の仕事を携わっているからというものもあるかもしれないが、今初めて話すが福祉の仕事に就いているから思うのかもしれないが、冬はどうしても行かなければならない。一人で居ても灯油は焚くと、だからそういう人のためにも経済的にも民家が沢山あって壊すのは勿体無い所もあるから、冬期間だけでも 2, 3 人でそこで暮らして、希望者があれば募ってみて、何年か前にも役場の方であったが、その時は希望が無く、今は急がないという希望があったので、役場の方でもストップしている。希望を取ってみないと分からないことなので、一人でも二人でも島にずっと居て欲しいと思うのであれば、それも福祉関係としては、その人より一つでも若ければお手伝い出来ることがあればそういう手もあるよと思う。やはり、親が居れば子どもも孫も島に来る。やってみないと分からない事だが、それも一つの方法と思う。どんどん居無くなるし、それだけ家族もあっちに行くとなると来る機会が無くなる。天売の方が言っていたように、足が無いから診療所に行くのに千円払うと、そして病院代は何百円で、また千円払うと年金なら暮らして行けないと、だからいつかは行くと言っている。そしてヘルパー車も乗せていけないので、町に言われているので。高齢者が本当に困っていることを援助出来ない。

委員：だけど、理想なのは、例えば人口一つにしても、これからどんどん減って行く中で、どこで歯止めをかけるのか、歯止めをかけるにはどうしたら良いのか？とにかく、人が居なければ何も出来ないのだから、ある程度抑えた人口でもってどこで線引きをして、それをやるためには島の人は何を考えれば良いか、町に何を願えば良いのかというのも一つの方法論としてある。亡くなる人が多くなるのであれば、その分だけでも島に住む人を連れてくるかという方法も。

委員：当然、人口流出を抑えるためには何が必要か、そして、亡くなる人もいて人口は減るが、例えば I ターンのような定住移住者が来ればある程度横並びで行くのかなと思うが、その人方が生活していくためにはどういう収入でもって生活して行くのかが一つ大事な事。例えば、手取り早いのが漁師になって漁業でもって生計を立てる。けども、今来た I ターンの人方が漁師をやったってすぐ収入に繋がる訳では無いし、だから事業を展開してやるのかという選択方法もある。とにかく、人口流出に歯止めをかけるには収入が安定していなければ、ここには安心して暮らせないというのが第一の問題。

委員：やはり高齢者も増えますし、医療の関係、福祉の関係でということになる。若い人でも居れば漁業関係でも何かまた興すことも考えられるが、本当に

必要なとなれば身近な事で医療、福祉の関係で定住したいとなれば安心感がなければ住めない。だから、今回の私の叔母が先生が居ないと言う事で、来るか来ないかも分からないので島に居て 80 年経ったが、行きたくないと言っていたが不安だったので島を出たら、もう医療の心配をしなくて良いから安心したと言っていた。

委員：焼尻島もインシュリンをやっている人が、もう行かなければならないと覚悟して「行きたくない行きたくない」と言っていたら、先生が見つかってストップした。子どもさんは毎日の様に電話があるし、何かあったらおいでと言っている。その人も 87, 88 歳になる。

委員：今回お医者さんが来たから良いですが、今後どうなるか分からない。

委員：本当は、そういう行きたくないと言っている人にまだ居て欲しい。やはりどうしてもない部分もあるから、本人もいずれは行かなければならないと言っているが、今はデイに欠かさず来ている。こういう場に来ないとお話しも出来ない、家から出て歩かないから、人と接する接点が無いのでデイだけは何かあっても来ると言っている。

委員：そういう事が、島の人にとっては安心になっている。

委員：羽幌でも、町に居ながらお医者さんはいるが婦人科が無い。市街地ですらそういう状況。

委員：子どもが風邪を引いても苦前に行くと言っている。建物は良いけど、お医者さんが居ない。やはり大きな病院に行きたい、その方が安心である。

委員：医療・福祉の関係で安心出来るのであれば、島は穏やかで良い所なのだが。

委員：その良い所を延ばして行けるような何かあれば良いのだが。

事務局：今の話がこういうところに出てくると思う。

委員：当然、それこそ島づくりの基本理念というのは、これはこれで良いと思うが、その第3節にある島づくりの重点課題というのはある程度今の話で進んでいると思う。安心な医療・福祉の話をしたし、産業・雇用の創出、いわゆる仕事が無ければ人口は減って行くばかりだから、さっき言った定住移住・交流人口の拡大ということを町で話をしていることだから、島づくりの重点課題として何があるのか、それをどう解決して行くのかこれから話をして行かなければならないのかなという感じがする。

事務局：そうすると、さっき言った具体的な話に繋がっていく。

委員：その中で、皆共通の見てきたことが基本理念ということでどうか。

委員：島の将来像だとか、基本目標を達成するためにどういうことをやって行けば良いのかということがこれからの話し合いになるが、例えば、一番の安心な医療・福祉の確保について、こういう事をしたら良いのではないかということがあれば具体的に出してもらえればと思う。とにかく、医者の確保が第一に掲げられることだが。

委員：先生も2年なり、3年なり居る期間は良いけど、また同じ繰り返しになる。

委員：例えば、先生が3年間の契約で来ているのであれば、3年近くなってきたら次の先生がまだ決まっていなかったのかと言った不安がある。

委員：年寄りでなくても、若い者でも皆不安がある。

委員：どこまでも悪い流れで行くが、例えば、若い家族のいる30代、40代の先生が先を見据えて20年、30年住みながら地域の医療を担ってくれる魅力的な島を作るのも一つ、後2、3年で定年の先生しか探せない、そういう先生にしか受け入れてもらえない島の環境がある。

委員：どういう話をしたらこっちを向いてくれるのか？先生方も勉強が出来ないということもあるが。

委員：遠別に行った先生は、先進医療の研修用の別予算を作って優遇された。

委員：ここずっと年配の先生ばかりで、それが悪いという訳では無いが、若い先生方が島に来てくれるためにはどうしたら良いのか。

委員：汚い話だが、医者に来てもらうためには報酬が良くなければ来ないというのが関わって来ると思うが、法外に報酬が出せる訳ではない。

委員：専門医だと駄目な話もネックになる。医療の関係で町長も一生懸命やっているが、話を聞いてみると精一杯な感じがする。

委員：でかい町のでかい病院に医者が集中しているから、羽幌辺りで医者不足であれば島にという話にならない。社会がそうになっている。

委員：テレビ電話での治療や薬の処方出来ないのか？それだけでも出来ればかなり違う。今の先生方も細かく診てくれるかと言うと、何かあれば紹介状を出すから病院に行ってくださいになる。

委員：せっかく通信網が走っているのだから。

委員：旭川の医大でやっている。

委員：前回の会議で出たが、ドクターヘリが夜間飛べないということがあるが、何のためのドクターヘリなのか？なんとか進めて、検討して対応してもらわなければならない。

委員：それは行政にお願いする部分。夜間はドクターヘリが飛べないのであれば、防災ヘリで対応出来るのかといったシステム自体もある程度検証というか、我々の方から要望していかなければならない。

事務局：防災ヘリを担当していたが、防災ヘリは結構融通が効くようになった。悪天候でもすぐ行けるようになった。昔は、道の防災航空室とのやり取りがあったが、最近はずぐ自衛隊の方で乗せてくるようになった。

委員：さっき委員が言っていた、お年寄り人が冬を越せるかという不安を抱えて、今年は居るけど来年は越せないから出て行くという人が増えて行くと思うが、その不安を取り除く方法は無いものかなと思う。

委員：冬を越せれば居れると、古い家だけこの歳で家を直す気は無いと言って

いる。我々若い者が、少しご飯支度をして、昼間はデイに行って、古い民家でもあれば良いかなと思う。自分も定年になり嘱託で動いているので、誰かやってくれる人が居て、その人が休みの時に頼まれればボランティアのような形でもやるような気持ちで従事して行きたいとは思っている。

委員：例えば、冬だけでもグループホームのような形で、ある程度3人、4人で固まって、一人でストーブを焚くよりも燃料は削減出来るだろうし、家族も安心出来るのでそういう物が一つの案として必要と思う。

委員：少し観点が変わるが、古民家利用という観点で行くと、他所からの定住移住者をという時もそうだが、これから古民家の活用が課題で、今、焼尻で若い人が少し集まれる場所が欲しいから、家を買取って直して皆で集まる場所を作ろうかということで、それが出来たら他所から移住してくる人のために古材を買ってやってみようかという動きがあるが、声をかけてみた時に「夏は帰って来るから」と言われるが、段々帰って来なくなって潰れかけの家をしている所がある。個人で言えば厭らしく聞こえるので、行政主導でこの後空き家になって処分してください解体してくださいとなった時にいくらかかるということをどこの自治体でもやっているが、そのメリット・デメリットを説明した上で、この位の額であれば買い手が居ますという仲介役というか、安心な窓口の機能を行政が担ってくれるのが理想。

事務局：今、似たような事で考えを持っていて、島に限らず市街でも同じ問題があって中には逆にアパートに住んでいるが、一軒家に住みたいというのがある。不動産屋が無いので誰に言ったら良いのか分からないというのがあるので、ブローカーみたいな事は出来ないが、うまく役場として関わって行く方法を検討中で、出来れば近いうちにやりたい。

委員：ぜひ、お願いします。そういう住環境の整備が出来れば、グループホームなり、若者が集まる場所のような色々と活用出来る。焼尻は、宿も衰退してきているから、観光客が泊まれるようにやっては行ける。

委員：案としては、個人的な小さな家でなくて、4件のうちの民宿で他所から辞めるという話が聞こえてきているので、そういう所を貸して貰えるのであれば行政に相談して、若い人が来ようが、冬だけ老人が住もうが両立出来る。

委員：教育に、教職員住宅の整備を行うとあるが、焼尻では小学生が2、3人しか居なくて、空いている教員住宅が有る中で、他所から来てくれる人のために綺麗にというのも分かるが、だったら定住してくれる人や住んでいる人のために同じ位の予算があるのであれば優先的にやって欲しい。結構、この住環境整備は重要。

事務局：焼尻、天売で、若い世代で一軒家や公営住宅があれば入りたいと希望している人はどの位居るのか？

委員：結構います。

委員：来年辺り結婚という話が聞こえてきているので、今住んでいる所から出れば住宅の問題が出てくると思う。

委員：島にずっと居て欲しいし、新しい人に来て欲しい。何か良い仕事が無いかなとも思う。

委員：そうなるよ、この活力ある産業・雇用の創出という話になる。

委員：これが、医療の次にそれが無ければ誰も来ない。

委員：しかし、魚関係にしても漁師も少なくなって来ているが、漁も少なくなって来ている。

委員：いわゆる温暖化の影響というのか、確かに水温が上がって行っているし、昔獲れた魚が獲れなくなった。南で水温が1度2度上がれば、南で獲れた魚が北で獲れるかということそうもならない。やはり、獲れた物をいかに少ない量で金額を上げるか、なかなかこのデフレの時代でうまくは行かない。

委員：やはり、加工面で付加価値を付けるということ。

委員：確かに、ここで上がった物を加工して付加価値を高めて出荷というのが一番良いが、そうなれば産業として雇用も出来ると思うが。

委員：だが、揚がる物も揚がらなければどうしようもない。

委員：昔は、タコでもボンボン揚がって、一次加工だけでなく三次加工まで出来るスタイルであれば良いが。

委員：昔、タコが獲れた時に干した物を貰って食べていたが、今は留萌に行く途中にタコの珍味屋があるが値段は高い。魚が沢山揚がってくれば良いが。

委員：水産業であれば、根付け資源の物であればある程度漁師が資源管理しながらやれるが、流れ物はそうは行かない。例えば、マグロにしても来る年もあれば来ない年もはっきりしているから水産業は安定性が無いのかなと思う。

委員：羽幌も、焼尻・天売もそうだが、漁師目線でいくと極論を言うと共産主義ではないが、皆で助け合って水揚げをプールして行こうかとなるかいうと、そこまでは思っていない。皆他より稼ぎたい、一番になりたいという方が強い。天売は大きい船もあるが、焼尻は一人乗りの船ばかりなので、ある意味競争力を付けて行く方向に伸ばす手段があると思う。厳しい事を言うと弱い者は淘汰されるのも仕方が無い部分もある。もっと、危機感を持って、切磋琢磨していく中で伸びて行く方法を考えようというブランド化であったり、その人しか持っていない技術で付加価値を付けるのが、焼尻ではやり易いと思う。

委員：例えば、漁師は魅力あると思っている子どもはいるのだろうか？

委員：羽幌の中学校で実施した、自分の将来の夢に対してその現場で活躍してい

る人から話を聞けるというものの話をしたことがあって、将来の夢に関する事前アンケートで、漁師をやりたい生徒が居たかという居なかった。それ位、魅力が無いと思われている。焼尻の子ども達ですら、大間のマグロ位のインパクトのあるものでないと興味が無い状態。逆に言うと、大間はああいう演出をすることで魅力があると思われている。

委員：やはり安定性が無いというのが現実。安定性のある漁業を目指して行くためにはどのような漁業形態に持って行ったら良いのか、漁協も考えて行かなければならないし、行政の協力も必要になる。

委員：やはり、最初に戻ってそれを目指すのであれば、根付け資源の増大は必要不可欠。正直な話、ウニ採りがあるから冒険しても良いとなる。ウニが何キロ取れば、武蔵碓行って失敗して重油代をパーにしてもウニがあるから良いかという考えにもなる。

委員：前回の委員会で磯焼けの話が出たが、本当に磯焼けが進んで行っているのか？という話があったが、やはり磯焼けはあると思う。しかし、それは磯焼けだというはっきりとした証明できる調査機関が必要と思う。調査についても漁協、漁業者だけでは出来ない。町、道なりが入って調査してこれは磯焼けだから対策に乗り出そうという気構えが必要だと思う。漁業者から見れば、はっきりした磯焼けは誰が判定を下すのか。漁業者が言っている、人によっては違うという人もいると思うし、それを判定できるようなきちっとした調査が必要なので、当然漁協としてもやって行きたいし、行政の力も借りてやって行かなければならない。磯焼けを解消するための事業にしても補助事業を活用しなければならない。具体的に言うと水産指導所などがあるが、昔はウニやアワビを結構調査していたが、今はウニの調査すらやらない。大体にして指導所が潜れない。どっかの会社のダイバーを雇うと何十万、何百万とかかるので、そういう補助的なものを行政が出してくれないかというのが要望。昔であれば道職員が潜ってちゃんと調査していたが、今は潜れない。

委員：年々、指導所も人数が減って行っている。

委員：ホタテに力を入れたり、ナマコに飛びついたり、我々が希望するウニについては頼まないとやらない。道の方針もおかしいと思う。

委員：産業の方で言えば、例えば、観光地としての整備は重要課題だなという風に思う。

委員：それは、一番だと思う。ある程度の整備は必要なこと。

委員：整備するにしても受益者負担でやりなさいとはならないと思う。夏場しか無い観光客の収入が整備事業で消えてしまうのであれば何にもならない。そういうのは、ある程度行政的にやって欲しい。

委員：色々な形で整備をやってくれているが、より具体的にもっと意見を出して

それに対してどうこうというのがあれば良いと思うが。

事務局：それはやって行きたい。帰ったら当然そういう話があったことを担当課に回すので、今言われたから来年出来るかは分からないが、予算のある事なので一片には出来ないが年度をスライドさせながら、お金がかからないものもあるので。

委員：役場の職員方は、国や道からお金を引っ張り出す方法ももう少し考えてやって欲しいと思う。我々住民だけでは気づかないこともあるので、どうい事業があるのかも含めて。

事務局：情報交換もして行かないと、行政で一方的にやってもやりたい方として思うような事業にならないかもしれない。やりたいという意見を生で出してもらった方が道にも向かいやすい。

委員：色々なアプローチが一年に一回か二回はあるが、宿の人に一軒一軒聞いて回っても参加出来ないということもある。

事務局：町から要望が無くても、支部の方で事業があれば時期に拘らないで言ってもらって良いと思う。

委員：ただ、昨年から見ると支部の予算は町に直行している。

委員：観光事業としてはやり易くなった。

委員：今日のスケジュールであれば、島の重点課題まで行ったが、重点課題でも2の産業・雇用で終わっている。例えば、定住移住・交流人口の拡大ということがあるが。

事務局：それは、あくまでも仮なので、重点的に絞りたいというのがあればそれでも構わない。

委員：定住移住というのは、さっきの住宅の話に関係していく。

委員：最後に、P11～P30まで基本計画があるが、皆目を通してと思うので、この部分対し何か意見があれば。

委員：例えば、24Pに観光のことがあり、主な施策とあるが、その3番目に「観光施設の整備を行います。」とあるが、具体的にどうなのかというのはこっちから出すということか？

事務局：結局、10年間でもこういうことをやって行くということ。下に、「自然公園管理」などがあるが、さっき言った10年というのがあるので、抽象的な表現にしかっていない。

委員：さっき言った宿泊施設は、焼尻の民宿はほぼ限界だと思うので、新たなる観光客の宿泊を受け入れられる施設、誰かが管理して貸すような今一軒あるログハウスみたいなものや、よさこいとめん羊まつりでコラボした時に民宿が限界だという状況であれば臨機応変に研修センターとか格安の維持費程度の金額でお客さんを泊まらせることが出来るという前例を三浦

課長が産業課だった時に焼尻の会議で答えてくれている。

委員：民宿自体も3軒、4軒位しか無いし、当然、民宿が不足している現状。ただ、公共の施設でも泊まれるような形をとって行けば。

委員：せめてキャンプに来るお客さんで、大雨の時だけはこっちにだけでも良い。

委員：焼尻の西浦コミュニティーセンターなどがあるのだから、そういう所を活用して。建物が勿体無いなという感じがするので、活用すれば。

委員：町の施設をPRというのは変だが、有効活用と民宿以外の手段があると。有効に利用出来るように、また周知出来るようにすれば、本分は研修目的なので、それに差し支えない範囲で、流動的にセンターに来てくださいますとか、宿泊施設の心配で焼尻に行きたくないというのが無くなる。

委員：沿海フェリーでやっていたのはどうなったのか。

事務局：あれは断ち切れた。千円位で泊まれば、もっとフェリー利用してくれるということ。

委員：行政ももっとソフトな考えを持ってくれば、そうしても、使用目的がこうだから駄目だとか、例えば、研修センターは研修のためのもので宿泊施設では無いとか。

事務局：おそらく、旅館業との兼ね合いもある。

委員：焼尻の場合は、限界状態になっている。

委員：昔は、民宿が沢山あるのに、公共施設に泊まらせるんだというのがあったと思う。少し柔軟な考えで、臨機応変に使えるような方法を考えれば。

事務局：11P以降については、さっきの意見を書く紙を配布するので、次回委員会までに貰えれば一旦集約して担当課と調整しながらやる。この紙で無ければならないということはないので。

委員：町に出す住民提案事業の書類も作っている所。

委員：まだまだ意見もあると思いますが、言いそびれたものは次回の委員会もあるので、そろそろお開きにしようと思います。

事務局：連絡事項だが、次回焼尻の方で委員会を開催したいと思う。また、日程は改めて日程調整をして連絡します。

○閉会